

国営・補助（水利施設等保全高度化事業【川西西2地区】）

事業の概要

○目的

畑かん、区画整理、暗渠排水、除礫、客土を実施し、農業所得の向上と農業経営の安定を図る。

○概要

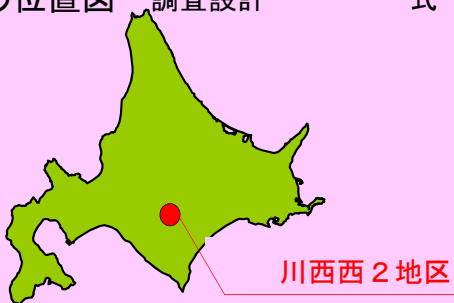
事業名 水利施設等保全高度化事業
(畑地帯総合整備型)

地区名 川西西2地区
 関係市町 北海道帯広市
 事業工期 平成29～令和5年度
 受益面積 701.5 ha
 総事業費 1,893百万円
 主要工事
 畑かん 300m
 区画整理 513.2ha
 暗渠排水 2.3ha
 客土 16.1ha
 除礫 4.9ha

○令和3年度における予算額

国費 117百万円
 事業費 228百万円
 内容
 区画整理 110.0 ha
 客土 6.4 ha
 除礫 2.5 ha
 調査設計 一式

○位置図



ほ場整備による基幹作物の安定生産と高収益化

- 本地区は、小麦、豆類、甜菜、馬鈴薯を基幹とした土地利用型の畑作経営が主体。
- 未整備農地を中心として、排水不良による湿害や石礫の分布による根菜類の生育障害が発生。
- 畑かん施設等を整備し、基幹作物の安定生産と農作業省力化により高収益作物の導入を促進。

○実施前の状況

湿害や石礫、傾斜地など地形条件の影響や営農に支障をきたしており、収量減や病虫害の発生、共同作業による機械化作業に支障が生じているほか、干天時の水分不足による高収益作物生産の阻害など、経営規模拡大や新規作物の導入が困難となっている。

○事業実施後の効果

輪作体系が確立され、基幹作物の生産性及び品質が向上



かん水状況



馬鈴薯の収穫作業

営農の転換が図られ、高収益作物(長いも)を導入

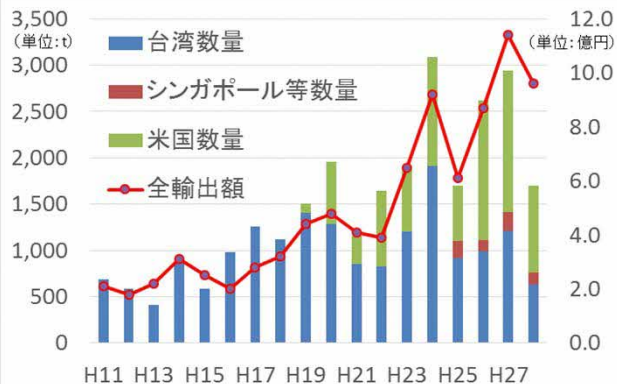


長いもの収穫作業

6次産業化に向けた取り組み

- 6次産業化への取り組みと生産量の安定により全国有数の産地に発展し、海外輸出へ展開。

『十勝川西長いも』の海外輸出



輸出による大口需要先を確保したことで、販売の安定化が図られ、作付面積・生産量ともに増加。

【販売戦略・工夫】

- ・ 食品の安全を証明する食品衛生管理の国際規格『HACCP』を土もの野菜として初めて導入
- ・ 欧米では取引条件とする場合が多い国際的な品質保証となる『SQF』認証の取得を目指す
- ・ 安定した通年供給体制や品質管理の徹底で付加価値を高める



主要輸出先と輸出額 (平成28年産)

